

堺アーチェリー協会の成立と現在の活動

我が国にはモンゴリアン型と呼ばれる弦の内側から親指をかけるタイプの弓があり弓道として発展していましたが、1939年（昭和14年）に現在のアーチェリーの原型であるメディタレイニアン型と呼ばれる弦の外側から三本の指をかけて引っ張る形式の弓がアメリカから持ち帰られました。1947年（昭和22年）には日本洋弓会が設立され、1956年（昭和31年）には日本アーチェリー協会と改称し、さらに1966年（昭和41年）に全日本アーチェリー連盟に改称され現在に至っています。この間、1961年（昭和36年）のオスロで開催された第21回世界選手権への参加や、1972年（昭和47年）にはオリンピックに初参加するなど国際的に活躍するようになり、2004年（平成16年）アテネ・オリンピックで銀メダルを獲得した山本博選手の活躍など記憶に新しいところです。

今日、創立50周年を迎えました当堺アーチェリー協会は、1960年4月に当時大阪府立大学におられた白倉仲助氏と武山秀氏により創立され、同時期に大阪府アーチェリー連盟も創立されました。府立大学では先の両氏により1960年頃に体育の授業にアーチェリーが取り入れられ、前後してアーチェリー部が創設されました。また、府立大学アーチェリー部は、1964年（昭和39年）にヘルシンキで行われた第22回世界選手権に派遣された末田実氏を排出しており、同氏は全日本アーチェリー選手権大会でも優勝しています。

当堺アーチェリー協会は創立当時から、堺市内唯一のアーチェリー組織であった期間が長かったのですが、加入者の増加とニーズの多様化に対応するため1988年に改組を行い、堺クラブとファインプラザ・アーチェリークラブの2クラブが所属する組織になりました。その後、加盟クラブ数の増減があり、現在では堺クラブ、鴨谷アーチェリークラブ、泉北クラブの3クラブが加盟する組織になっています。また、大阪府立大学、堺東高校、帝塚山学院高校や桃山学院大学のアーチェリー部が、当協会主催の競技会に参加しています。

当協会に加盟している各クラブは、原池体育館、ファインプラザ大阪、浜寺アーチェリー練習場などで練習に励んでおり、複数の国体選手も排出しています。また、当協会では鴨谷体育館で定期的にアーチェリー教室を開催し、初芝体育館で開催されている教室に指導員を派遣しており、ファインプラザ大阪で開催されている練習会への支援もしています。

当協会では、長く春季に府立大学アーチェリー場で種目別優勝大会アーチェリーの部と秋季の堺選手権大会を開催してきました。近年、堺市立の体育館でアーチェリーができる環境が整ったため、現在では春季の種目別優勝大会と秋季の堺選手権大会を原池体育館で開催し、冬季には鴨谷体育館でインドア大会を開催しています。

今回創立50周年を迎えた当協会ですが、1990年の創立30周年記念時には山本博氏と弓具メーカーであったヤマハ株式会社所属の広瀬明氏を迎え技術講習会を行いました。また、2000年の創立40周年時には再び広瀬明氏を迎えて技術講習会を開きました。さらに、2007年（平成19年）の原池体育館のお披露目では、山元博氏を迎えデモンストレーションをしていただきました。

このように、当協会は1960年に創立して以来、諸先輩のご努力により50年間堺市内で活動を続け、多様な活動を展開し、その間多くのアーチャーを生み出してきました。今後も、以前にまして、アーチェリーの振興に貢献できる組織であり続けることができることを願っています。